



一針一針思いが込められたぞうきんを手に笑顔

今年も大迫更生保護女性の会（会長 高橋恵子様）から会員の方が作成したぞうきんを届けていただきました。

学校行事や校舎清掃に役立ててほしいという気持ちで丁寧に作ったぞうきんです。

代表して保健委員会の2名（委員長 6年佐藤菜々子さん、副委員長 6年佐々木莉子さん）が受取りました。

早速、校舎の日常掃除やPTA早朝作業に使わせていただきました。

このごろはそうじ機や家庭用モップなどでそうじするため、ぞうきんをみかけなくなりつつあります。子どもたちにとって、ぞうきんを使ってそうじする経験は小学校でしかないのかもしれませんが。さっと汚れを拭けて、水で洗って、水を絞って、乾かして何度も使えるぞうきんの便利さを子どもたちに気づいてほしいです。



入所者の方々と楽しい時間を過ごした5年生

桐の里（特別養護老人ホーム）訪問を5年生が行いました。

子どもたちは3つの体験を行いました。車椅子の仕組みや安全な操作方法について職員の方から説明を受けました。車椅子といっても種類がたくさんあることに興味を示していました。その後、ペアになり実際に車椅子を体験しました。次に各部屋から食堂まで入所している方を車椅子に乗せて移動させました。はじめ、子どもたちは緊張と戸惑いで声もかけられませんでした。が、「席はどこですか？」「止まりますよ」「次曲がりますよ」など自然に声を掛けれるようになっていました。最後は、子どもたちが自己紹介をした後合唱を披露しました。

発表が終わって、入所者の方が一人一人と子どもたちとが握手をしてお別れをしました。入所者にとって、子どもと触れあいその日を笑顔で過ごしてくれたことをうれしく感じます。



活動が充実 ボランティア委員会

秋になり活動が活発になってきた委員会があります。ボランティア委員会の活動を紹介します。①赤い羽根共同募金・・・児童玄関前で朝、ボランティア委員会が募金を呼びかけました。1週間の活動で8075円の募金が集まりました。②学校花壇への花の苗植え作業・・・パンジー、ビオラ、シロタエギクの3種類計130株を植えました。③通学路の落ち葉掃き作業・・・使い慣れない竹ぼうきに苦戦しながらもきれいな通学路になりました。

一人では大変な作業でもみんなが力を合わせればなんとかなることを身をもって、体験できたと感じます。ボランティア委員会のみんな！ありがとう。



11. 6 授業実践公開研究会で児童は生き生きと

研究主題を「自ら学び、共に学ぶ子どもの育成 ～自己効力感を高める算数科の指導～」として、令和 5・6 年度に本校で授業実践研究をしてきた成果を発表することができました。当日はご来賓、一般参観者を含め 90 名もの多くの方々に参加していただきました。来校者を迎えるにあたり、PTAの方々に受付係をはじめ様々ご協力をいただき感謝申し上げます。授業は低中高から 1 学級の授業を行いました。それぞれ学年の発達段階に合せて、学習用具を選択したり、考えを整理させる工夫をしたりしながら、自信をもって問題に取り組む児童を育てています。



1 年生 ホワイトボードを使って
自分の考えをまとめています。



4 年生 問題プリントを解きながら
自分の解き方を整理しています。



6 年生 友達と自分が考えた考え
方を共有し、確かめ合っています。

小学生にとって読書は考える力のエネルギー源！

その 1 4 年生の掲示版に子どもたちがお薦めする本の紹介が掲示されました。読書カードには、「本の題名」「作者」「本の紹介文」「おすすめポイント」「イラスト」が書かれてあります。本を読んで終わりにしないで、自分が本から得た知識や情報をみんなに発信することが大切であると気づかせてもらいました。そして、読書カードを読んだ子どもたちが、図書室に足を運び手に取ってくれることを願っています。



その 2 秋の読書月間が始まっています。2023 年度の文化庁調査によると、1 ヶ月に読む冊数は「読まないが」が全体の 6 割を超えたと示しています。

本校の児童の様子を見てみると低学年は図書館に通っていますが、高学年は読書ばなれが進んでいるようです。

新聞に以下のことが書かれていました。

本を読むことの良いところは、
「新しい知識や情報を得られる」 55%
「豊かな言葉や表現を学べる」 48%
「感性が豊かになる」 46%

本をたくさん読んだ方がよい時期は、
「小・中学生時代」 66%
「高校時代」 32%
「就学前」 24%

食べ物にも旬があるように、読書にも旬があると感じます。就学前は親子で読み聞かせをすることで、子どもは親からたくさんの愛情を絵本を通して感じるができます。小中学生は、いろいろなジャンルの本に触れ新しい知識や情報を得て、想像し考える力を育てることが必要です。

図書館や書店には、様々なジャンルの本が並び、思いがけず良書に巡り会う瞬間が訪れる機会があります。さあ、まずは一冊手にしてほしいです。